

入浴マニュアル

株式会社 福 老

目 的

- 1 利用者にとって大きな楽しみの1つである入浴を、安全かつ快適に行う。
- 2 身体を清潔にし健康増進を図る。
- 3 身体に変化がないか観察する。
- 4 心身機能の向上につなげるようにする。

<浴場の準備>

- 1 浴槽にお湯をためる。
- 2 塩素濃度を測る。(水質検査をする。)
- 3 お湯の温度を確認する。
* 夏～38℃ 冬～40℃に設定し肌で確認する。
- 4 備品の点検：シャワー椅子・洗面器・シャンプー・ボディーソープ・カミソリ・石鹸・タオル

<脱衣室の準備>

- 5 脱衣室の椅子にバスタオルを掛ける。
- 6 脱衣室の棚にタオル・バスタオルを入れておく。
- 7 浴室入り口に足拭きマットを敷く。
- 8 室温調節をする。(脱衣室と浴室の温度差を5℃以内にする。)
- 9 ドライヤー・くしを準備する。

<入浴者の確認>

- 10 バイタルを計り、入浴可否および注意事項の確認・本人の入浴意思の確認
* KT37.3℃以上・BP150/90以上または風邪症状のある方は
入浴を中止する。
* 入浴中止の方で状態により部分浴または清拭・肌着交換する。

<入浴前の排泄誘導>

- 11 入浴前に排泄の声掛けをトイレに誘導する。
- 12 「お風呂にどうぞ」と声掛けをする
* 貴重品は事前に預かりロッカーに保管する。

- 13 移動介助しながら安全に誘導する。
- <脱衣介助> 14 本人と一緒に着替えを出し棚に準備する。
- 15 見守り・声掛けをし必要に応じ介助する。
* 麻痺のある人の介助は健側より脱がせる。
- 16 シャワー椅子に座る直前にお湯をかけ暖める。
* 陰部にタオルをかけるなど、羞恥心に対する配慮を行う。
- 17 シャワー椅子に腰掛け、安定するのを確認する。
- 18 身体の変化（浮腫・打撲・湿疹・じょくそう）の有無の観察をする。
- 19 シャワーの温度をスタッフ自身の身体で確認し、本人に適温を確認してもらう。
- 20 声を掛けながら足元より全身にシャワーをかけ身体を温める。
- 21 耳にお湯が入らないように注意し洗髪する。
- 22 洗髪後、乾いたタオルで拭く。
- 23 顔を洗う。
- 24 濡らしたタオルの石鹸をつけ背中を洗身する。
* できるだけ本人にしてもらい、できない部分を介助する。
- 25 石鹸の泡が残らないよう洗い流す。

<浴槽への誘導>

- 26 移動介助をしながら浴槽に誘導する。
- 27 浴槽出入り口手すりを持ってもらい段差を確認し、声を掛けながらゆっくり入ってもらい、浴槽内に落ち着くまで見守る。
- 28 浴槽内の常時見守りを行う。（浴槽に入る時間は5分～10分位）
- 29 浴槽出入り口の手すりを持ってもらい段差を確認し、介助しながらゆっくり上がってもらう。
- 30 手すりを持って安全な姿勢で立ってもらう、またはシャワー椅子に座ってもらいシャワーをかける。
- 31 身体にバスタオルをかけ、脱衣室まで安全に誘導し、椅子に座ったのを確認する。
- 32 タオルを渡し身体を拭いてもらい、出来ない部分を介助する。
- 33 本人の服を確認してもらい、出来るだけ自分で着てもらう。
- 34 ドライヤーで髪を乾かし整髪する。
- 35 スタッフ（入浴介助）はホールまで安全に誘導し、スタッフ（ホール見守り）に「お願いします」と声を掛ける。
- 36 安全に誘導し、座ったのを確認する。

37 爪が伸びていれば切る。

38 水分補給のためお茶・冷茶等を準備し、お好みを聞いて提供する。

2010年7月16日